



みらいこども園

2月号

2022年2月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子

子どものワクワク感を大切に

「鬼はそと!」「福はうち!!」と暦の上では節分を過ぎますと「春」を迎えると言われますが・・・今年の冬は、寒さが厳しく、コロナウィルス感染の心配を抱きながらの生活は、何かと体調を崩し、ストレスを感じ易い気がいたします。さらに、オミクロン株の感染が大幅に拡大したため、再びまん延防止措置が発令され、胸を広げて喜ぶコロナ終息の「鬼退治」が見える春はまだまだ遠いところにあるようです。保護者の方には、日頃からみらいこども園における感染症対策と教育活動の両立に対し、ご理解とご協力をいただき心から感謝をいたします。引き続き子どもたちを見守っていきたいと思います。

このような状況の中でも日々成長を見せる子どもたちの姿がとても頼もしく感じられます。にじ組さんは、小学校就学に対する意識がより高まり、ランドセルや机、どこの小学校へ行くのかななどの共通の話題に花が咲き、仲間意識も強くなっています。そら組さんは、もうすぐになじ組さんになるという嬉しさからか、積極的に物事を理解し行動する姿を垣間見ることがあります。ほし組さんも伸び伸びと生活を楽しんでいる中にも約束やルールが分かってくる、友達同士声をかけ合う姿も見られ、ひとつのことに集中する時間が長くなってきました。乳児クラスについても、動きが活発になり、ことばや出来ることが増えたことから、人に伝える喜びを感じて、とても表情が豊かになっています。一人一人の成長が身近に感じ取られ、より愛しさを覚えます。

先日、川崎市の幼児教育研修会が開催され、職員とともに参加いたしました。今回は、メディアでも注目されている仮想ライブ空間「SHOWROOM」の創設者、前田裕二先生の講演を拝聴しました。書籍でも、「人生の勝賛」「メモの魔力」が、ベストセラーになるなど、TVのコメンテーターとしても活躍されているおなじみの先生の講演ですので、皆さん興味津々です。すると、今の自分の考え方や行動の原点は、幼少期に、両親をはじめ、周囲の人々が、自分が興味関心をもつものに対し、「納得するまで、そばに寄り添い、一緒になって考えたり行動したりしてくれたこと。」「自分は愛されている。認められていると感じながら育ったこと。」であると、育てられた環境の大切さを明言されておられました。また、幼少の頃に感じたワクワク感や探究心により「たくさんの人と関わり、色々な考えの人がいることが理解でき、自然にコミュニケーション能力も育ち、今の仕事にも生かされている。」とのこと、「楽しい」と感じるものに出会ったとき、その意欲は倍増し継続され、次へのステップアップに繋がるとも言われました。さらに、氏曰く、人との関わりが増え、お互いを尊敬したり、共感したりすることで、協力者も出てきて、自分が描く世界はどんどん広がるそうです。幼少の頃、日常生活の中で、『なんで?』『どうして?』がとても大切で、学びや思考力の基礎は、この時に出来上がるもおっしゃっていました。このお話は、子ども園の保育の考え方に通じるものがあり、何よりも、自己肯定感をもって、自分の考えのもと力強く生きていくには、幼少期の体験や愛情が大切であると改めて痛感しました。今、前田裕二先生は、自分を大切にすることと共に、人のために何かできることはないかを常に考えているそうです。この思いが仕事として成り立っていることに敬意の念を抱きました。

みらいこども園の子ども達も、たくさんの方に興味関心をもち、友達と一緒にワクワク、ドキドキ感を繰り返しながら学びの基礎を身につけて欲しいものです。私たち職員も、子どもの疑問にどう向き合うかかによって、知的好奇心が育ち、「学ぶことって楽しい」という感覚が培えるように、日々の保育の質を高めていけるよう努力いたします。



たこたこあ〜がれ!



(雪の玉)せんせいに
あてちゃおう!



おさえてるね。